

ブダペスト通信

盛田 常夫



2025年 NO.2

調子が上がらない小林領有

スキージャンプ W 杯前半戦終了



特設ジャンプ台で 291m の世界記録を達成した小林領有 (2024 年 4 月)

2025 年 1 月 11 日

昨シーズン、3度目のスキージャンプ週間総合優勝を飾り、W杯総合得点で2位となった小林領有だが、今シーズンは不調に苦しんでいる。W杯32勝の小林が後半戦で復活するのか、それとも低迷したままで終わるのか、これからの活躍が期待される。

昨シーズンからプロに転向した小林は、2024年4月末、スポンサーのレッドブルが用意した特設ジャンプ台（アイスランド）で、291mの非公認世界記録を達成した（<https://www.redbull.com/jp-ja/ryoyu-kobayashi-summary>, <https://www.redbull.com/jp-ja/ryoyu-kobayashi-ski-jumpier-makes-history>）。夏のシーズンでも好調を維持し、本番の冬のシーズンへの準備は万端と思われたが、開幕直前の腰痛と体調不良が重なり、今シーズンの前半戦は、これまでにない不調に苦しんでいる。得意のジャンプ週間で感覚を取り戻すかと思われたが、一向に調子が上がらず、ジャンプ週間は15位、W杯総合順位は18位と低迷している。

ここ数年に活躍したジャンパー（グラネルード、リンドヴィック、クヴァツキー、ガイゲルなど）も、小林と同様に、軒並み低迷しており、スキージャンプの難しさを改めて教えてくれる。名が知られたジャンパーの低迷を横目に、これまで中堅選手とみなされていた選手たちが活躍し、W杯の総合優勝争いは、近年になく伯仲し、面白くなっている。

意外な選手たちが活躍

今シーズンの開幕から絶好調のパシュケ（ドイツ）は34歳のヴェテラン、これまでW杯で1度しか勝ったことがない。ところが、今シーズンは開幕から絶好調で、ジャンプ週間前まで5勝し、ジャンプ週間総合優勝を狙える位置に付けた。ところが、肝心のジャンプ週間前に調子を落とし、優勝候補と目されながら6位に終わり、一度も優勝争いに加わることなく脱落した。W杯総合順位は6位に後退した。

パシュケに代わって、目覚ましい活躍を見せているのが、オーストリアの若手である。22歳のチョフェニツヒは今シーズンに大化けし、ジャンプ週間で2勝して、総合優勝を飾った。ジャンプ週間の優勝争いはオーストリアの3選手が最後までしのぎを削った。

昨年、小林とW杯総合優勝を争ったクラフトは、今シーズンも好調を維持し、ジャンプ週間で2勝し、10年ぶりのジャンプ週間二度目の総合優勝に近づいたと思われたが、最後のビショフスホーフエン大会で3位に終わり、わずかの4.1ポイント差で総合優勝を逃した。最後のジャンプを終えたクラフトには落胆の様子がありありで、他の選手が近寄ることができないほど茫然自失状態だった。

2015-16年に21歳でジャンプ週間総合優勝を飾ったクラフトだが、そこから10年の間、オーストリアは優勝に届かなかった。その間に、ポーランドのストックと日本の小林が3度の総合優勝を飾っただけでなく、グランドスラム（全4戦制覇）の偉業を達成している。オーストリアにとっても、クラフトにとっても、今年は総合優勝だけでなく、クラフト2度目のジャンプ週間総合優勝の期待がかかった大会だった。

ジャンプ週間の総合2位には、わずか1.4ポイント差（距離にしておよそ1m）で、同じくオーストリアのヒュエルが入り、上位をオーストリア選手が独占した。オーストリアのスキージャンプ陣は黄金時代に入っている。

選手層が薄い日本

日本のジャンプ陣は小林領有と二階堂漣が引っ張っている。二階堂はジャンプ週間第3戦で失格処分を受けたので、総合順位は27位に終わったが、W杯順位は15位をキープしている。そのほかの選手たちは軒並み下位に低迷しており、W杯ポイントを得られずゼロ点の選手もいる。予選を通過し、本選1回目でも上位30名に入らないと、W杯の得点はもらえない。ゼロ点や数ポイントしか稼げない日本選手がほぼ最下位に低迷している。選手の入替えが行われてもおかしくないが、日本は固定メンバーで参戦している。

オーストリア、ドイツ、ノルウェー、ポーランドを除く国々は、スキージャンプ人口が少なく、有望な選手が出てくる素地がない。日本は世界の5-6番目のスキージャンプ国だが、近年は小林領有だけが目立ち、他の選手の台頭がない。なんとも残念なことだ。コーチ陣のトレーニング指針に問題がないか検討の余地がありそうだ。

W杯の大会は金曜日の予選、土曜日・日曜日の本選というスケジュールで行われる。ヨーロッパの選手は、一つの大会が終わる毎に地元に戻り、自宅でくつろぎ、体調を取り戻す余裕があるのにたいし、長期の遠征旅行を行っている日本選手には、ゆっくり体を休める時間がない。体調を崩した小林がなかなか復調できないのは、このような事情もある。

札幌大会では、52歳の葛西紀明選手が出場するかどうか話題になっている。W杯出場記録、W杯得点記録（上位30名）を塗り替えるかどうか注目される。若いパワーだけで順位が決まる競技でないので、面白い。息子の世代ではなく、孫の世代と一緒に競技するという珍しい光景が見られるかもしれない。

今年の札幌大会はW杯終盤の2月末になるので、日本で調子を整える時間がもう残されていない。今シーズンの小林には復調を期待できない。せめて今シーズンの体調管理の教訓を、来シーズンに生かしてもらい。